

現状の課題

- ・現状の課題:自分の考えや発想を生かした言語活動に消極的である。「書くこと」「読むこと」が低い。
- ・現状課題のための手立て:生徒の実態を考慮し、言語活動を多く取り入れた授業を通して、語彙力・基礎力の強化を図り、課題克服を目指した授業改善を実践する。

具体の取組の内容

- CAN-DOリストの改善と活用による生徒への「意識化」と生徒との「共有化」を図る工夫
 - ① 小中高連携及び新学習指導要領を踏まえたCAN-DOリストの改善
 - ② 教師側の指導目標としてのCAN-DOリストの活用
 - ③ 目指す姿を明確にし、生徒が自らチェックする活用方法の工夫(毎時間の提示、リスト配付、単元ワークシート集への添付)
- CAN-DOリストを生かした4技能向上を図る指導の工夫と「生徒の発信力強化」を図る指導の工夫 (研究授業・授業公開 12/6)
 - ① CAN-DOリストに対応した言語活動の実践
 - ② 4技能の統合的な言語活動の実践
 - ③ 生徒の考えや経験を生かす「発信力」を意識した言語活動の実践
 - ④ 学習形態の工夫
- 全国学力・学習状況調査の結果を受けての授業改善:reading力・writing力の強化
- パフォーマンステストの実践 ① ALTとの連携 ② 技能別の実施: Writing (紹介文、レポート、エッセイ、スキット等)/Speaking (英会話、スピーチ) / Reading (音読)
- ICTの活用→電子黒板・デジタル教科書の活用 ○ 小・中・高連携の強化
- 語彙力・基礎力を育成する指導の工夫①帯学習やワークシートの内容の工夫②家庭学習の指導及び支援の充実③スプリングコンテストの実施



↑総合学習内容



↑学び合い・班活動



↑ALTとのSpeaking test

もともとに会津を紹介

成果①

○生徒アンケート結果より:
全国学力・学習状況調査の英語に関する質問項目について、12月に再度、3年生にアンケートを実施した。「当てはまる」と「やや当てはまる」の合計の変容を確認した。その結果、ほとんどの質問項目において、4月より数値向上が見られ、生徒の意識の向上や授業改善の成果が見られた。

※項目 抜粋	英語の勉強は好き	英語の授業はよくわかる	※A英語を聞いて概要や要点をとらえる活動	※B英語を読んで概要や要点をとらえる活動	聞いたり読んだりしたことを、英語で問答したり意見を述べ合う活動	※C聞いたり読んだりしたことを、書いてまとめたり考えを書く活動
全国4月	56.1%	60.0%	79.2%	81.2%	77.4%	74.6%
本校4月	43.1%	55.1%	68.8%	69.8%	72.4%	70.7%
本校12月	62.2%	78.4%	92.8%	93.7%	88.3%	91.9%

左記の表の※Aと※Bについては、教科書等の内容理解を図る際、常に要点をとらえる質問を最初に設定し、その後、聞き取り読み取りに取り組む学習を継続して行ったため、※Cについては、日々の授業の中で、書く活動を、様々な形で意図的に実践してきたため、このような結果になったと思われる。

成果②

- CAN-DOリストを改善したことで、明確な到達目標を、教師・生徒共に確認し合いながら、言語活動を実践することができた。
- 小中高連携強化により、中学校英語指導のあり方について改めて理解を深め、指導改善に取り組むことができた。
- ※実践例
 - ・中1:外国語活動での既習事項を生かした授業の実践
 - ・中3:長文読解において高校と同じような授業の実践

今後の課題・方向性

- CAN-DOリストの改善:単元ごとの具体的な言語活動を明記し、実践する。
- 言語活動の改善:1時間の授業でできる簡単で効果的な言語活動の工夫をする。また、複数技能を統合的に指導することにより、総合的な力を育成する。
- パフォーマンステストの改善:CAN-DOリストへの位置づけを図る。また、実施内容と実施方法の精選化と、評価規準の明確化を図る。